

KANEFUSA

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
株主確定基準日	(1)定時株主総会・期末配当 3月31日 (2)中間配当を実施する場合 9月30日 (3)その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を設定いたします。
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目7番20号 日本証券代行株式会社 名古屋支店 電話 052-261-1781(代表)
郵便物送付先 お問合せ先	〒137-8650 東京都江東区塩浜二丁目8番18号 日本証券代行株式会社 代理人部 電話 ☎0120-707-843
単元株式数	100株
公告方法	当社のホームページに掲載します。 <a href="http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html">http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html</a> ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。



## 第63期 中間報告書

平成22年4月1日～平成22年9月30日

## ホームページのご案内

<http://www.kanefusa.co.jp>

当社ホームページでは、財務データやトピックス情報など、最新のIR情報や製品情報などをご覧いただけます。



第63期 中間報告書  
Contents

- ① 株主の皆様へ
- ③ Special Issue  
・兼房独自の技術力
- ⑤ 営業の概況
- ⑦ 連結財務諸表  
・連結貸借対照表  
・連結損益計算書  
・連結キャッシュ・フロー計算書
- ⑨ 海外現地法人紹介  
・ブラジル
- ⑩ Information  
・会社概要  
・役員  
・株式の状況

## 免責事項

本報告書に掲載されている当社の計画・戦略および業績見直しは、将来の予測であって、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、見直し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。将来予測に関する記述に全面的に依拠することはお控えいただきますようお願いいたします。

持ち前のユニークな技術力、  
そして多彩な製品を武器に、  
世界の総合刃物メーカーを目指します。



取締役社長

渡邊 将人

## Q | 当中間期(2011年3月期中間)の業績についてお聞かせください。

円高の状況が長く続いており、当社もその影響を受け、為替差損が利益圧迫につながっている状態です。しかし、各工場とも稼働状況はほぼフル回転の状態の中、国内・海外各拠点それぞれが良く頑張っていると思います。

国内では、政府による景気浮揚策の効果もあり、自動車関連市場で売上を伸ばしました。ここ数年取り組んできた非住宅関連市場の開拓も実を結びはじめています。海外では、ヨーロッパは依然厳しい状況が続きましたが、米国は予想以上に好転。中国や新しい販売拠点としてのインドも順調な拡大を見せています。インドネシアでは一部現地従業員のストライキにより工場稼働が低下し、業績に影響を与えている事象となっていますが、他の拠点に生産を移管するなどして、影響を最小限に留めるべく対処しております。

## Q | 円高対策を含め、下半期の重点的な取り組みをお聞かせください。

円高対策といっても、個々の企業レベルでできる対策は限られていますが、中国、ブラジルなど、海外での設備投資を優先させようとして計画しています。

特に経済成長の著しい中国においては、現在の拠点での生産設備拡張はもちろん、他の地域への進出も含めて検討していきたいと思います。社会情勢は不透明な部分もありますが、当社は現地社会にも溶け込んでおり、心と心のつながりをベース

に現地スタッフとも極めて良好な関係を築いていると感じています。中国は広大であり、経済成長率も高く、人口も日本の約10倍です。そう考えれば、近い将来中国のマーケットだけで日本国内をも凌ぐ売上を目指すことも不可能ではないと考えています。

また、ブラジルに関しては、18,600㎡の工場用地を既に購入し、生産品目の検討などを進めているところです。営業活動はすでに始動していますが、2012年を目途に現地での生産も含めた本格的な参入を計画しています。

一方、インドネシアでのストライキは現在係争中で、現地の司法当局に判断を委ねている状況ですが、我々としては毅然とした対応をしてきたという自信があります。現に、二十数年間ともに会社を支えてくれている、技術的にも優れた現地の中核社員たちは、騒動の中でも、強い愛社精神のもとに工場の操業維持・回復に最大限の努力をしてくれています。問題が解決し、再びフル操業できる日は遠くないと信じています。

国内の経済情勢も依然不透明な状況ではありますが、数年かけてタネをまいてきた新製品の評価が向上し、大手ユーザーからの受注に成功。そこから横展開で他のお客様にもじわじわと広がっています。こうした動きを活性化させていきたいと思っています。

厳しい状況が続きますが、国の内外を問わず、若いスタッフたちがこうした成功体験を積み重ねていくことが、今後の業績回復への起爆剤になるのではないかと期待しています。

## Q | 「真のグローバル企業への飛躍」が2011年度のテーマですが、世界で戦っていくためのカギは？

カネフサには、ものづくりが本当に好きなエンジニアが集まり、切磋琢磨しながら開発に取り組んできた歴史があり



ます。それが「おもしろい製品をつくる会社」「ユニークな製品を生み出せる会社」というブランドイメージをつくっているわけですが、それはつまり、お客様のニーズ・問題にあわせて解決策を提供できるということを意味します。

例えば、住宅建材を作る工場では様々な工業用刃物を必要としますが、その全てをカバーできる刃物メーカーは少ない。カネフサは競合他社の2~3倍のラインアップを持っています。これほど幅広いノウハウを持っているのは当社しかないのです。

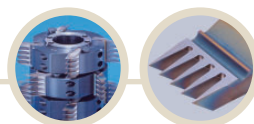
ここ数年は、お客様の工場に出向いて技術指導をさせていただく機会も増えており、お客様との関係もますます緊密になっていると感じています。多彩な製品や技術力を武器にお客様の懐に入って問題解決に活かすことこそ、真のグローバル化を実現する基盤であると考えています。

## Q | 最後にになりましたが、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

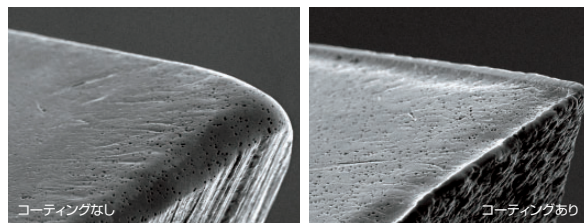
現在、回復・拡大基調にある足元の数字をベースに新たな飛躍を盛り込んだ3か年中期経営計画を策定しております。業績の早期回復を目指すとともに、安定した配当を堅持する方針に変わりありません。引き続きご支援のほど、よろしく申し上げます。

世界のカーネフサを支える特許技術ひとつひとつに現場で培われたノウハウが息づいています。

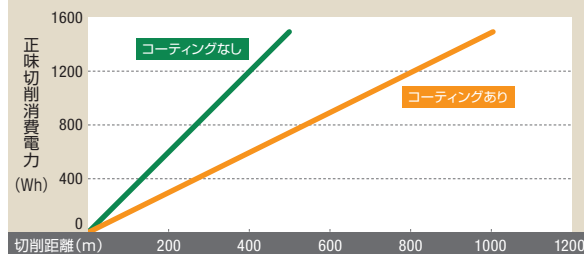
### コーティング技術



切れ味を向上させ、工具の長寿命化と、消費電力の削減を可能としたコーティング技術。このコーティング技術に関する特許は、日本をはじめ米国、欧州で取得済みです。また、新たなコーティングについては、中国にも出願しています。

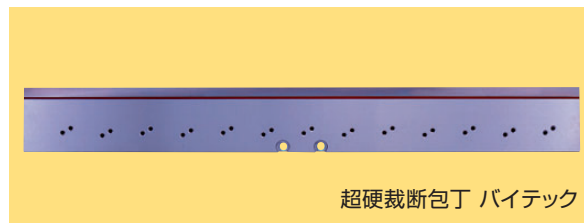


#### 消費電力の比較



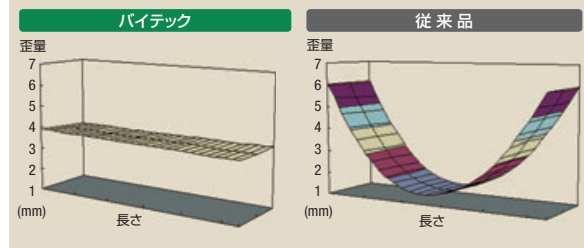
### 接合技術

当社独自の接合方法により、歪(ひずみ)や刃先の欠けを抑制するとともに、より硬い刃金の使用が可能となりました。こうした接合技術を使った断裁包丁「バイテック」に関する特許は、日本をはじめ米国、欧州で取得済みです。



#### 使用後の歪み状態

※社内試験結果/長さ=1,390mm



グローバル戦略を推進している中で特許においてもグローバル化が進んでいます。

海外を中心として、特許登録累積件数が年々増加

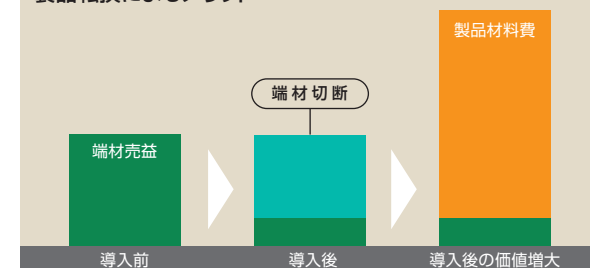
海外特許登録比率は2000年度の16.7%から2009年度は46.7%へ

### 歩留まり向上技術

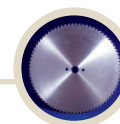
資源を有効活用することにより、歩留まりの向上を図ることができる超硬丸鋸端材切断機を開発しました。一般切断機から出る端材を切断し製品にすることで、端材の有効活用が可能となります。現在、国内にて出願中です。



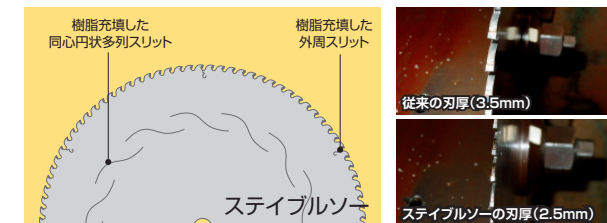
#### 製品転換によるメリット



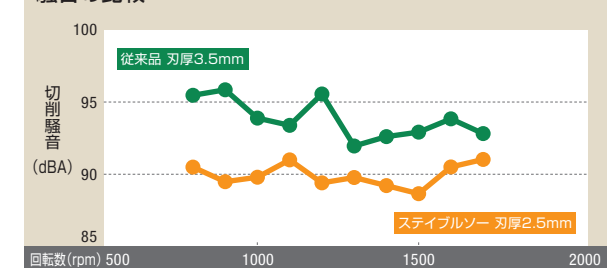
### 静音化技術



丸鋸の台金に特殊形状のスリットを施すことにより、薄鋸化が可能となり、切削騒音も大幅に低減。薄鋸「ステイブルソー」に関する特許は、日本をはじめ欧州、中国、ロシアなどで取得済みです。また、米国、ブラジル、韓国へも出願しています。



#### 騒音の比較



概況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、在庫調整の進展や海外経済の改善に牽引される形で輸出、生産が増加するなど、一部で景気回復の兆しが見られましたが、急激な円高など先行き不透明な状況となっております。一方、世界経済は、中国・インドなどの新興国においては依然として高い経済成長が見られるものの、欧州諸国での財政悪化懸念など景気は不安定な状況が続いております。

当社製品と関連の深い国内住宅関連産業におきましては、住宅需要は低金利や住宅減税政策などにより回復の兆しが見られるものの、新設住宅着工戸数は依然として低水準で推移し、厳しい状況が続きました。一方、自動車関連産業におきましては、新興国市場の拡大、環境対応車や小型車の伸長などにより、世界全体の総自動車生産台数は回復傾向にあります。特に日系自動車メーカーでは、エコカー補助金終了により予想される新車販売減や急激な円高など、予断を許さない状況となっております。

売上高

当社グループは新製品の開発、新分野・新市場の開拓、新興国での営業力強化を推進するとともに、総力を挙げて受注確保のための営業活動に注力いたしました。国内における売上は、金属切断用丸鋸が好調となり、非住宅関連刃物など総じて堅調に推移いたしました。一方、海外での売上は、米国およびアジア市場を中心に金属切断用丸鋸、木工用丸鋸および合板用刃物などが好調に推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は67億7千1百万円（前年同期比28.7%増）となりました。

経常利益

利益面につきましては、営業利益は2億7千2百万円（前年同期は5億6千5百万円の営業損失）となりましたが、急激な円高により営業外費用で為替差損1億4千2百万円を計上し、経常利益は1億3千9百万円（前年同期は5億7千万円の経常損失）、四半期純利益は9千9百万円（前年同期は2億5千2百万円の四半期純損失）となりました。

通期の見通し

通期の連結業績としましては、売上高136億6千万円（前年同期比19.7%増）、経常利益4億2千万円、当期純利益2億8千万円を見込んでおります。

2010年度上期新製品

ローカーボン用 FMコールドソー

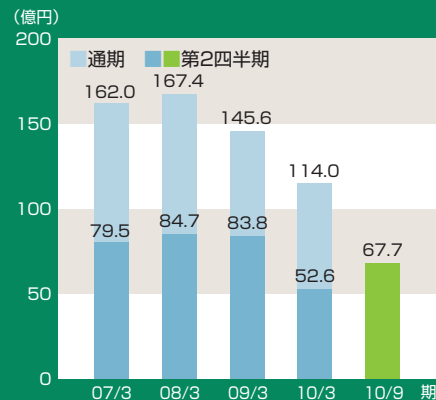
近年、自動車用部品には炭素含有量の低い鉄鋼材料を冷間鍛造することが多く、切削時の切屑排出に難があり、切断面に溶着する場合があります。切屑がスムーズに排出できるように刃先形状を見直すことにより、高品質な切断面維持と寿命を大幅に向上させました。

用途

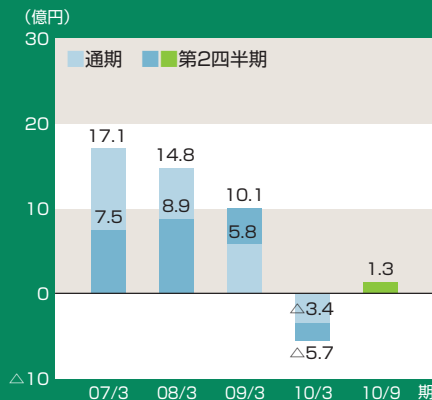
低炭素鋼材（炭素含有量0.2%以下）の切断



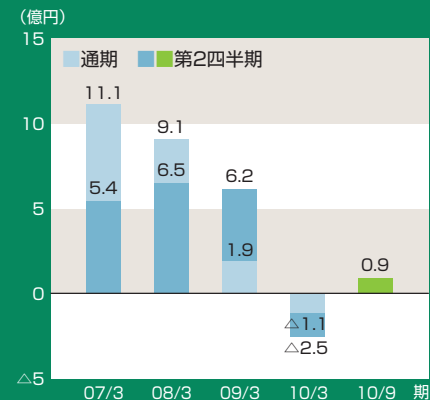
売上高



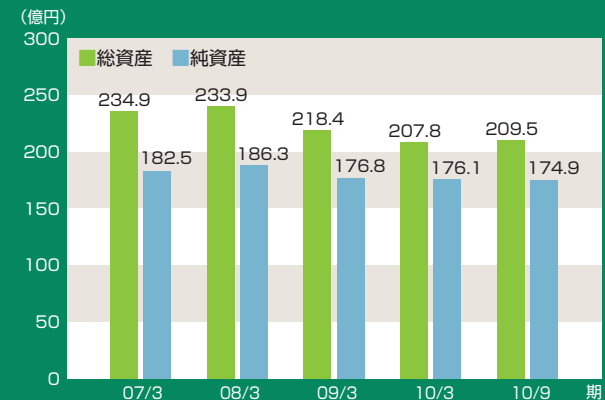
経常利益



四半期（当期）純利益



総資産・純資産



総資産

現金及び預金が2億6千1百万円、受取手形及び売掛金が2億3千万円、投資その他の資産が2億9千4百万円、それぞれ増加し、有形固定資産が3億2千4百万円減少したことなどにより、前期末比1億6千7百万円増加して209億5千3百万円となりました。

負債

支払手形及び買掛金が2億2千2百万円増加したことなどにより、前期末比2億8千7百万円増加して34億6千1百万円となりました。

純資産

利益剰余金が5百万円減少し、評価・換算差額等が1億1千5百万円減少したことにより、前期末比1億2千万円減少して174億9千1百万円となりました。また、自己資本比率は前期末の84.7%から83.5%となりました。

連結貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	当第2四半期末	前期
		平成22年9月30日現在	平成22年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>			
流動資産		11,321,801	11,109,675
固定資産		9,631,898	9,676,544
<b>資産合計</b>		<b>20,953,699</b>	<b>20,786,220</b>
<b>(負債の部)</b>			
流動負債		2,660,788	2,337,136
固定負債		801,198	837,045
<b>負債合計</b>		<b>3,461,986</b>	<b>3,174,181</b>
<b>(純資産の部)</b>			
株主資本		17,586,735	17,592,000
評価・換算差額等		△95,022	20,038
<b>純資産合計</b>		<b>17,491,713</b>	<b>17,612,038</b>
<b>負債純資産合計</b>		<b>20,953,699</b>	<b>20,786,220</b>

連結損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当第2四半期	前第2四半期
		平成22年4月1日から平成22年9月30日まで	平成21年4月1日から平成21年9月30日まで
売上高		6,771,050	5,261,687
売上原価		4,613,330	4,010,726
売上総利益		2,157,719	1,250,961
販売費及び一般管理費		1,885,584	1,816,464
営業利益又は営業損失(△)		272,134	△565,503
営業外収益		25,753	109,315
営業外費用		158,503	114,791
経常利益又は経常損失(△)		139,385	△570,979
特別利益		1,743	280,236
特別損失		28,294	89,838
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)		112,833	△380,581
法人税等		13,781	△128,187
小数株主損益調整前四半期純利益		99,052	-
四半期純利益又は四半期純損失(△)		<b>99,052</b>	<b>△252,393</b>

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

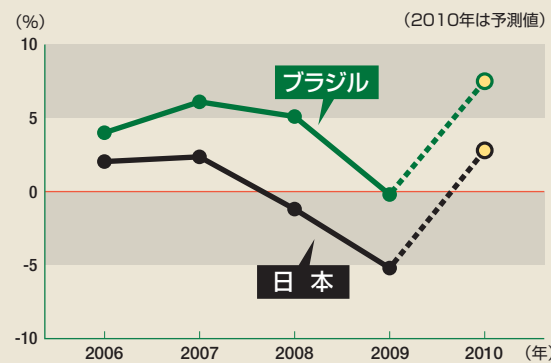
単位:千円

科目	期別	当第2四半期	前第2四半期
		平成22年4月1日から平成22年9月30日まで	平成21年4月1日から平成21年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		792,024	214,662
投資活動によるキャッシュ・フロー		△353,404	462,743
財務活動によるキャッシュ・フロー		△104,315	△88,767
現金及び現金同等物に係る換算差額		△72,779	7,579
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		261,524	596,216
現金及び現金同等物の期首残高		3,115,024	2,444,886
現金及び現金同等物の四半期末残高		<b>3,376,549</b>	<b>3,041,103</b>

## 成長著しいブラジル市場に向けて現地販売子会社 「カネフサド ブラジル LTDA.」を設立

南米で成長著しいブラジル。南米大陸で最大の面積を有し、バイオエタノールの生産量は世界一です。総人口1億9千万人の市場により、自動車の普及は今後も進むことが予想されます。また、近年は環境および大量輸送に利のある鉄道への注目も高まっています。カネフサはこのブラジル市場において、自動車や鉄鋼をはじめとし、製紙、木工関連などの工業用機械刃物の需要増大が見込まれることから、海外販売を拡大することを目的として本年1月、現地子会社をサンパウロ市内に設立しました。当面は、販売会社としてスタートしますが、2012年を目途に現地生産開始を計画しており、本年7月サンパウロ州アラサリグマ市(サンパウロ市から西北西へ約50km)に18,600㎡の工場用地を購入しました。

### 実質経済成長率推移



資料 ジェトロ・ウェブサイト「国・地域別情報」(J-FILE)  
IMF-World Economic Outlook(2010年10月版)

### KANEFUSA DO BRASIL LTDA.



社名	KANEFUSA DO BRASIL LTDA.
住所	Rua Joaquim de Almeida, 75, Mirandópolis, Sao Paulo, SP, Brasil
資本金	3,982,402 レアル

# Information

## 会社概要 (平成22年9月30日現在)

商号	兼房株式会社 KANEFUSA CORPORATION
設立	昭和23年11月25日
資本金	21億4,250万円
本社所在地	愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目1番地
従業員数	582名
主要な事業内容	工業用機械刃物・工具・工作機械・機械部品の製造販売。ならびに、関連する事業に対する投融資および技術供与。
主要な事業所	本社・工場 愛知県丹羽郡大口町 支社 中部 関東 関西 営業所 札幌 福岡 広島 仙台 海外駐在員事務所 マレーシア
子会社	P.T.カネフサインドネシア カネフサUSA INC. カネフサヨーロッパB.V. 昆山兼房高科技刀具有限公司 昆山兼房精密刀具有限公司 カネフサインディア Pvt. Ltd. カネフサド ブラジル LTDA. 大口サービス株式会社

## 役員 (平成22年9月30日現在)

取締役社長	渡邊 将人	取締役	藤吉 芳久
専務取締役	太田 正志	取締役	富田 律男
常務取締役	稲葉 公男	取締役	春日 晃
常務取締役	平子 哲朗	取締役	萬谷 哲朗
常務取締役	西尾 悟	常勤監査役	柳瀬 敏行
		監査役	辻中 修
		監査役	鮎澤 多俊

## 株式の状況 (平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	14,310,000株
株主数	1,782名

### 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
大口興産株式会社	2,299	16.5
渡邊 裕子	1,190	8.5
太田 万佐子	1,151	8.2
兼房従業員持株会	921	6.6
渡邊 美奈子	865	6.2
渡邊 浩	763	5.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	531	3.8
渡邊 将人	417	3.0
太田 正志	389	2.8
株式会社りそな銀行	200	1.4

(注)持株比率は自己株式(409千株)を控除して計算しております。

### 所有者別株式分布状況

